

特別支援教育便り



H30.5.25(金) 文責 中山 幸江

こんにちは、特別支援コーディネーター3年目となりました中山です。今回は、PTA総会で毎年お話ししている、芦屋中学校の特別支援教育についての紹介をいたします。

芦屋中学校では、年度の初めに学年集会で「自分は大切な存在であること」「自分を大切にすること」「友だちを大切にすること」など、人権について確認をします。それから「困ったときは、遠慮なく声をかけて下さい。」と話をしました。また、特別支援学級(かがやき学級4名、きらめき学級2名)と通級指導教室(正式入級5名)について紹介をしました。

そこで、特別支援教育の説明に先立ちまして、考えていただきたいことがあります。下記の20個の項目でご自分にあてはまるものに○を付けてみてください。

- ①得意な教科と苦手な教科の間に極端な差がある。
- ②ちょっとした雑音等が気になり、集中できない。
- ③本を読むとき、読み間違えたり、行をとぼしたりすることがある。
- ④長い文章を読むと、途中で内容がわからなくなったりする。
- ⑤場の雰囲気や暗黙のルールがわからない。
- ⑥黒板の字を写すとき等に漢字を間違えるときがある。
- ⑦おしゃべりは大好きなのに、作文が極端にまとまらなかった。作文が苦手である。
- ⑧計算ミスが多い。少数・分数の計算が苦手。
- ⑨困ったときに、人に助けを求めたり、相談したりできない。
- ⑩図形や立体の問題が苦手。図形を見て、同じ図形を書き写すことが難しい。
- ⑪勝ちにこだわりすぎる。
- ⑫自分の考えや気持ちを発表したり、人に伝えたりするのが苦手。
- ⑬レポート等の提出期限が守れない。
- ⑭体育で苦手なもの(体操やダンス・球技など)がある。
- ⑮美術(図画工作)・技術・家庭科等に関する技能が苦手。手先が不器用である。
- ⑯急な予定変更や教室変更があると、どうしていいか分からなくなる。
- ⑰整理整頓ができずに物をなくすことがある。
- ⑱一方的な会話をしたり、自分のペースのみで話しをしたりしてしまう。
- ⑲友人と仲良くしたいが、うまくいかない。
- ⑳人の話を最後まで聞かず行動してしまうことがある。



これに一つもあてはまらなかった方はいますか?では、一つ?二つ?・・・たぶん、全くあてはまらない方は少ないと思います。でも、あてはまるものは人によって違い、その違いを認め合っていくことが大事だと思います。芦屋中学校には、様々な個性のある生徒がいます。なまけているわけでもなく、家庭での育て方に問題があるわけでもありません。特別支援教育は、生徒たち一人ひとりの個性をよく理解し、必要に応じて適切な支援を行う教育です。すべての生徒が対象です。

知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で困難を示すとされた生徒の割合は「6.5%」、40人学級で2人～3人の割合だと言われています。お子様の様子で、次のような気になることはありませんか。

おしゃべりは大好きなのに
文字を書くことが苦手

友だちがうまく作れない

計算は得意だけど文章題が苦手

列に並んで順番を待つことが
できず割り込んでしまう

早い段階でその特徴に気付く事ができれば困っている生徒・保護者に対し、必要な支援ができます。正しい理解と適切な支援を始めることが、やる気や自信など自尊感情の高まりにつながります。間違った理解をされ指導支援を続けられると、自尊感情の低下や問題行動の発症と密接な関係があります。

トピック

栗原類さん 「発達障がいと向き合ってきた母との道のり」より

僕の場合は、すぐに忘れてしまう・こだわりが強い・感覚が過敏などがあります。情報番組出演後、「カミングアウトした」と言われましたが、僕自身は抵抗はなかったし、むしろみんな知ってると思っていました。特に、発達障がいのお子さんを持つ親御さんから「勇気もらった」などとたくさん声をいただきました。僕自身が発達障がいと知ったきっかけは、8歳のときに見た映画の「ファインディング・ニモ」その中で、すぐに忘れてしまうドリーというキャラクターがいるんですが、鑑賞したあと、母に「ドリーって面白いね」といったところ、母から「あなたもそうなんだよ」と返されて。実は、母はすでに小学校の担任の先生からの指摘もあり、僕が発達障がいだという専門家の診断を受けていました。だからいつ、そのことを僕に伝えるか、機を見ていたそうです。母は、海外での暮らしが長かったため、「人は十人十色」という考えで、僕に向き合ってくれたんです。それ以来、母は僕の弱点やその対処法について僕に何度も何度もくり返し伝えてくれました。また、脳が疲れやすい僕のために、生活のリズムを整えてくれたり。感情を表情に出しづらい僕に、嬉しいときや感謝の気持ちなども「言葉で伝えるんだよ」と教えてくれました。僕が今モデルや俳優などの仕事を続けられるのは、母や主治医、友人たちの理解のおかげだと思っています。・・・母が「これも類の個性」と戦ってくれたおかげです。・・・一部省略・・・もし、お子さんが「発達障がいかも」と思ったら、早めに診断されるほうがいい。不得意なことは早めに気づいたほうがいいし、将来やりたいことを早く見つける手がかりともなります。



栗原さんは、お母さまに毎日「迷惑かけてごめんね」「ありがとう」と毎日伝えているそうです。栗原さんが輝く背景に、お母さまとの強い絆を感じました。(続く)

最後に、芦屋中学校には「かがやき学級」「きらめき学級」の二つの特別支援学級と通級指導教室があります。特別支援学級や通級指導教室は、「自分に合った学習内容を、自分に合った方法で学習する」「その子に合ったペースで、自立した社会人になるための学習をする」場所です。

芦屋中学校では、全職員でインクルーシブ教育システムの構築(障がいのある者となない者が共に学ぶ仕組み)に取り組んでいます。

